

2024年11月6日

千代田化工建設株式会社
 総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

2025年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答要旨
(11月5日開催)

11月5日に開催致しました、2025年3月期第2四半期決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	第2四半期累計業績	
	完成工事高が前年同期比で減収、純利益が増益となった主たる要因はなにか。	<ul style="list-style-type: none"> 完成工事高は、主にインドネシア銅製錬が完工に向かうことにより収益減少となった。 純利益の増益は、完工済のインドネシア・タンゲ—LNG案件でのマイルストーン達成による追加収益の計上によるもの。
2	ゴールドデンパスLNG	
	新 Joint Venture(JV)体制での顧客との新たな契約の締結状況を教えてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 第1系列に関する契約は現在 最終調整の段階であり、近いうちに締結に至る見込みである。その後、第2系列/第3系列についても、顧客と協議の上、年度内の契約締結を想定している。
	顧客へのプラント引き渡しの時期が延びた場合には、JV側の負担が増えることはあるのか。	<ul style="list-style-type: none"> 納期が延長となれば JV側の負担は膨らむものの、当該追加コストについては顧客も認識しており、本コストも含めて顧客との交渉を行う。 現在 協議中の第1系列および第2系列/第3系列の契約締結のタイミングによって最終的なLNGプラントの立ち上がりの時期が決まる。
3	受注高	
	第2四半期累計での進捗	<ul style="list-style-type: none"> 通期予想 2,500億円に対して、第2四半期累計での実

#	質問	回答
	<p>が低い、下半期での具体的な案件や通期目標の達成確度について教えてほしい。</p> <p>また、来期以降は減収トレンドになるのか。完工高(事業規模)を維持できるのか。</p>	<p>績が 692 億円であり、通期予想の達成に向けて下半期において脱炭素関係を中心に国内案件を積上げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中期的な目線では、向こう 3 年間(2024 年度～2026 年度)で 1 兆 2,000 億円の受注を計画しており、減収トレンドが継続するものではない。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。